

Compassionate care for all

思いやりの心で
全人に寄りそう



公益財団法人近江兄弟社

ヴォーリス記念病院

病院機能評価認定

Vories Memorial Hospital

理事長のごあいさつ

公益財団法人近江兄弟社 理事長 **三ッ浪 健一**

公益財団法人近江兄弟社は1918年3月設立の近江基督教慈善教化財団を前身とし、1940年12月には財団法人近江兄弟社と改称しました。2012年4月からは、本部事務局、ヴォーリス記念病院、在宅サービス部門、ヴォーリス老健センターの4事業所が全体として公益財団法人に認定され、創立者ウィリアム・メレル・ヴォーリズの精神を継承する諸事業を行いながら、「地域医療の予防から終末期まで住民が安心して暮らせる地域社会の実現に寄与する事業」を公益目的事業として実施しています。2016年4月から、その公益目的事業について「地域包括支援センターの運営を追加する」ことが認められて近江八幡市中北部地域包括支援センターの運営を開始し、さらに2017年4月からは近江八幡市の認定のもとに、在宅サービス部門に新設された看護小規模多機能型居宅介護「友愛の家ヴォーリス」が活動を開始しました。これらにより、設立後100年を超えた当法人は、地域の方々すべてが、住み慣れた地域や自宅ですべて、自分らしく生きがいを持って生き続けることができるよう、地域包括ケアの推進に力を注いでいます。2022年11月からは新病院に移転し、さらなる充実を目指しているところです。これまで以上に、皆様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

院長のごあいさつ

公益財団法人近江兄弟社 常務理事
ヴォーリス記念病院 院長 **五月女 隆男**

公益財団法人近江兄弟社は創立者W.M.ヴォーリズの創立時からの理念である“キリスト教の隣人愛と奉仕の業を、医療を通して実践する”を体現すべく、各種事業を展開しております。開院後100余年が経過し、医療体系も変化をみる中でその時世の医療ニーズに応える形で、医療機能や病床機能を変化させてまいりました。現在は亜急性期から慢性期の患者様がその大半を占めケアミックス型の病院機能の充実を図っているところです。2022年秋には新病院に移転し新たなスタートを切り、患者様の利便性も向上したことと思います。これからの時代は病院機能分化による病院選択を患者様が自ら行うこととなります。さらに当院単独ではなく地域としての医療展開を推し進めることで、ここ近江八幡市で生活されている患者様の一助となるものと自負しております。以前より提唱している“ヴォーリズの里”構想は、現在進行形でプロジェクトが進んでおります。福祉行政としても地域振興の局面からも、この地で良き人生を歩むことができ、良き最期を迎えられるような場所を提供できればと考えております。ヴォーリス記念病院内の医療にとどまらず、在宅サービス・訪問診療部門の充実が地域包括医療システムのなかで最大限の力を発揮できるように努力してまいります。

基本理念

キリスト教の「隣人愛」と「奉仕」の業を、医療を通して実践します。

基本方針

- 1 ヴォーリス記念病院「患者憲章」及び「個人情報保護規程」を遵守し、患者さんの権利、意思を尊重する病院となる。
- 2 一般急性期、回復期、慢性期から終末期まで幅広く対応できる体制を整え、患者さんが穏やかに「生を全うする」ことを支える医療・ケアを実践する病院となる。

- 3 地域住民の疾病予防・健康増進のため、医療・保健・福祉活動の拠点として開かれた病院となる。
- 4 地域の医療機関、介護施設および地域包括支援センターとの連携を深め、在宅医療・介護を推進し、患者さんの立場に立った医療・介護を提供する。また、在宅サービス部門との協働により、在宅看取りを可能にする病院となる。
- 5 職員が大切にされ、夢・希望と意欲を持って、生き生きと働き続けることができる病院となる。

わたしたちのちかい

- 一、私たちは、患者さんのために最善をつくします。
- 二、私たちは、患者さんの誰にも笑顔で接します。
- 三、私たちは、患者さんの権利と意思を尊重します。
- 四、私たちは、患者さんが
穏やかに生を全うすることを支えます。
- 五、私たちは、知識・技術の向上につとめます。



患者さんとのコミュニケーションを大切にし
最善の医療を提供できるよう心がけています

■ 外来の紹介

地域看護

診療の補助業務と通院患者さんの在宅での生活に目を向け、ケアの目線で支援しています。病院と地域をつなぐ役割を行い、患者さんが住み慣れた地域で安心して過ごせるように日々ケアを行っています。



連携医療

患者さんやご家族の方が安心してご自宅での療養生活ができるように、院内の訪問看護やヘルパーステーション・居宅介護・地域療養支援部と連携を図り、より地域に根ざした看護・介護を提供できるように働きかけています。



チーム医療

各検査部門と連携し早期診断に努めます。様々な専門職が、チームとして患者さんを多角的にサポートし、何がベストかを考え、ケアを実践致します。



訪問診療

医師や看護師等が患者さんのご自宅を定期的に訪問し、診療、治療、薬の処方、療養上の相談、指導等をさせていただきます。緊急時には必要に応じて臨時往診や入院の手配なども行います。



診療窓口の一本化

診療受付が一本化されており、同日に複数の診療科受診が可能です。



患者さんの「声」を大切に

患者さんへのサービスを念頭に、アンケート等で皆様の声を聴かせていただき、待ち時間の短縮に取り組んでいます。



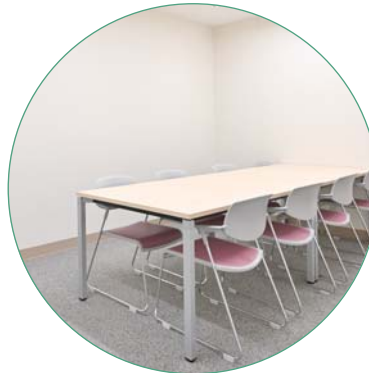
車いすの貸し出し・介助

正面玄関には車椅子を準備しておりますのでご利用ください。介助の必要な患者さんはお手伝いしますので窓口へ遠慮なくお声をかけてください。



入退院支援

入院時に、地域での医療の状況・生活状況・認知機能・家族状況等の提供をします。退院時に、在宅療養での継続支援項目の情報提供をします。



一般健診・人間ドック

早期発見・早期治療を目指して

症状がない時、病院へはつい足が遠くなってしまいます。しかし、症状のない病気も少なくなく、気づいた時には病状が進行していたという例もあります。多くの病気は、発見が早ければ早いほど、治る確率が高くなります。早期の段階で体の異常を見つけるためには、定期的に健診を受けることが大切です。健診室では、健康を守るサポーターとして皆様の健康管理のお手伝いのできればと思っております。

ご予約から結果報告までの流れ

お電話またはFAXでのお申し込み	健診日時のご案内・資料の送付	検査当日	診断書のご送付
健診・人間ドックは完全予約制です。事前にお申し込みください。HPからFAX申込用紙をダウンロードし、必要事項をご記入いただき上記のFAX番号へお申し込みください。 ※来院予定日の一週間前までに必ずお申し込みください。	受診日の2～3週間前に、ご案内・問診表・採取容器等を送付いたします。	当日8:30～8:45までに来院してください。 前日夕食は21:00まで 当日の朝は絶食でお越しください。 煙草、薬、飲水もご遠慮ください。	1～2週間程度で診断書をご郵送いたします。

健診・人間ドックに関するお問い合わせ、お申し込みは

TEL 0748-36-5467
FAX 0748-36-5477

お問い合わせ 受付時間 13:00～17:00



お申し込み用紙は、当院のHPからダウンロードできます(pdf形式)
www.vories.or.jp/

ヴォーリス記念病院 検索

検査当日の持ち物

- 健康保険証
- 診察券(お持ちの方)
- 人間ドック問診表
- 便容器

※お手元に届きましたら、容器に同封されている「正しい便の取り方」を読み、受診日の前日と当日の朝に採取した検体2回分をお持ちください。

各種健診の紹介

肺機能検査

スパイロメトリーという機器で呼吸する力を測定します。



胃内視鏡検査 (胃カメラ検査)

当院では、経口用・経鼻用の2種類のカメラを使って検査します。



脳ドック検査 (頭部MRI検査)

磁気の利用して体の臓器や血管を撮影します。



腹部超音波検査 (腹部エコー検査)

高周波の音を使い、腹部内臓器の病変部を観察・診断する検査です。



骨密度検査

高低2種類のX線を照射し、その透過度をコンピュータで解析して、骨量を調べます。



肺ドック検査 (胸部CT検査)

X線を使って体内の断面の写真を撮影します。



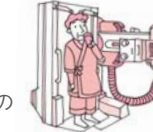
心電図検査

心臓の電気的な活動の様子をグラフの形に記録することで心疾患の有無を調べます。



胃部X線検査 (胃透視検査)

バリウムを飲みX線撮影をすることで、食道・胃・十二指腸の全体を写し検査します。



眼底検査

(眼底カメラ検査)

目の奥にある、網膜・視神経・眼底の血管などの状態を撮影します。



健康診断は、生活習慣を振り返り、改善するきっかけになります。定期的に健診を受けましょう。



一般病棟(急性期・地域包括ケア)

General ward

治療後、スムーズに社会復帰できるように
お手伝いをいたします

■ 一般病棟の紹介

急性期病床では、消化器・呼吸器・循環器の急性、慢性期の患者さんに加え教育入院等を受け入れています。
また、急性期を脱した患者さんの在宅復帰を目的に1〜2ヶ月入院加療していくための地域包括ケア病床も運用しています。
治療を受ける患者さんやご家族の思いをお聴きしながら、治療後、スムーズに社会復帰できるよう地域療養支援部と連携をとっています。

病棟	一般病棟(急性期・地域包括ケア)
病床数	50床(急性期病床:18床、地域包括ケア病床:32床)
入院対象	<急性期病床> 対応可能な急性期治療の必要な患者さん <地域包括ケア病床> 急性期治療を経過した患者さんおよび在宅において療養を行っている患者さん
入院目的	<急性期病床> 各種検査・内科治療・抗がん剤治療 <地域包括ケア病床> 在宅復帰支援に向けて医療管理・診療看護・リハビリなどを行うこと



診断

早期診断に努めます

治療

チーム医療で関わります

生活援助

個々に合わせたプランニング

在宅支援

安心してご自宅に帰られるように

私たちが大切にしていること

個々の病状に対応できる知識・技術を持ちながら、一人の人間として常に相手の立場に立って、相手の痛みを感じられるような感性を大切にチーム医療を実践しています

回復期リハビリテーション病棟

Recovery rehabilitation ward

出来る限り早期に自分らしい生活が送れるように
在宅、社会復帰を支援します

■ 回復期リハビリテーション病棟の紹介

回復期リハビリテーション病棟は、主に脳血管疾患または脊髄損傷、大腿骨頸部骨折などの患者さんに対して、ADL能力の向上による、在宅・社会復帰を目指し、早期かつ集中的なリハビリを提供することによって、寝たきり防止と日常生活動作の回復等を図ることを目的とする病棟です。

病棟	回復期リハビリテーション病棟
病床数	60床
入院対象	主として脳卒中や脊髄損傷、外科手術や肺炎治療後の廃用性症候群の方や骨盤や股関節、膝関節の神経・筋・靭帯損傷等の方が対象となります
入院目的	在宅復帰支援とリハビリテーションが入院目的となります
入院期間	対象疾患別で異なります



個別性

患者さんの個性を重視します

自立性

地域・生活へつなげるリハビリテーションの提供

安定性

退院後の安定した療養生活の提供

主体性

私たちは患者さんの「声」を大切にします

私たちが大切にしていること

生活の自立を目指し、リハビリに組み込みながら安心して入院生活が送れるよう、明るい雰囲気でお迎え、日々の生活を支援します



医療療養病棟

Medical treatment ward

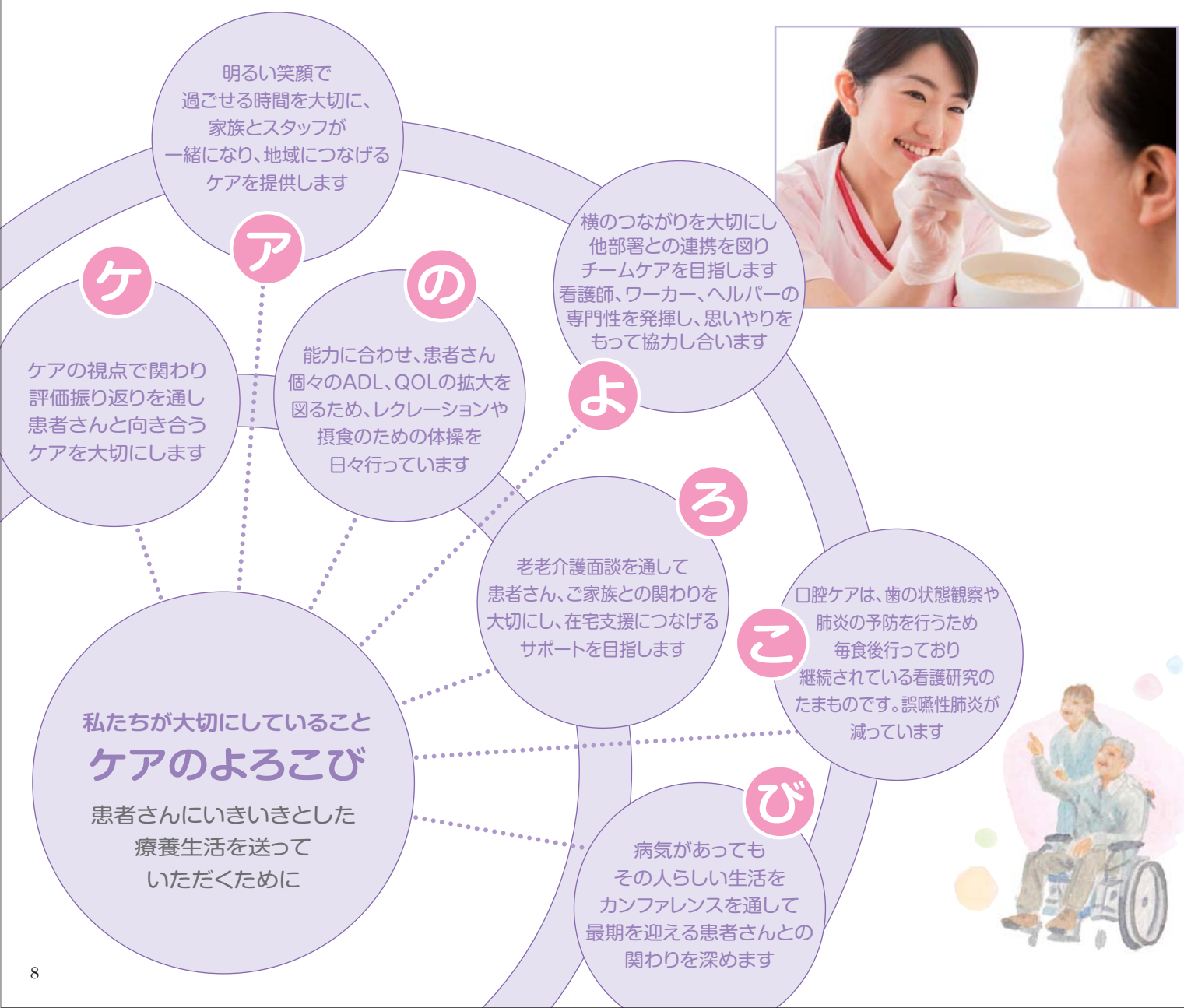
在宅への不安のある患者さんを対象に
看護・介護を提供しています

■ 医療療養病棟の紹介

医療提供の必要度が高い患者さん、急性期医療の治療を終えて病状は安定したが、在宅への不安のある患者さんを対象に看護・介護を提供しています。日常生活を整え、自立を支援し、レクリエーションなどの提供をさせていただきます。医療の必要度に応じ、医療度の高い患者さんが住み慣れた地域での生活が継続できるよう患者さんの状態に合わせて利用して頂けることを趣旨としております。



病棟	医療療養病棟
病床数	42床
入院対象	病状は安定期にあるが、療養を必要とされる慢性疾患の患者さんが対象となります
入院目的	医学的管理と看護・介護を提供しています
入院期間	原則3ヶ月～6ヶ月になっています 病状によって入院期間を決めさせていただきます
その他	急性増悪期の場合は、一般病棟などに転院治療が必要となります



緩和ケア病棟(ホスピス)

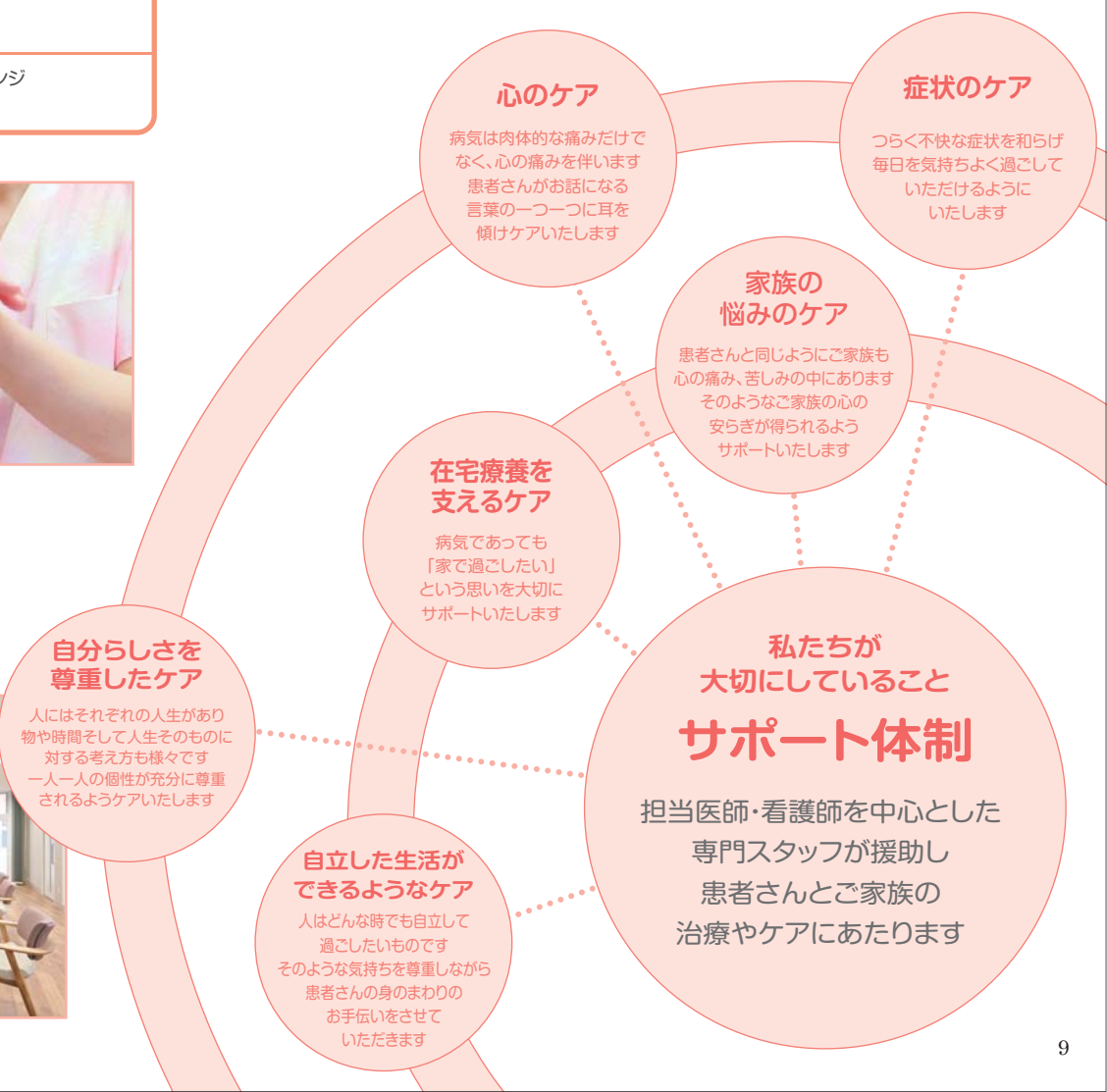
Palliative care ward (Hospice)

ここから、はじめよう
「自分らしく生きる」ためにサポートいたします

■ 緩和ケア病棟(ホスピス)

「家庭の延長線にあるホスピス」をイメージした柔らかな雰囲気と温かさを感じられる環境に、病気を背負い心と体の痛みを持った人たちが、安らぎを感じながら過ごしていただける場所です。患者さんやご家族の思いを尊重しながら、そして人らしい命を全うできるようチームで支援いたします。

病棟	緩和ケア病棟(ホスピス)
病床数	16床(有料個室8室 無料個室8室)
入院対象	がん・HIVによる様々な苦痛の緩和を必要とする患者さん
入院目的	・身体的、精神的、社会的苦痛の緩和と心のケアをしています ・在宅で安心して過ごして頂くために体験入院をお勧めしています
入院期間	・種々の苦痛の緩和ができれば、在宅ケアをお勧めしています ・体験入院4泊5日
設備	ファミリーキッチン、ラウンジ 家族コーナー、瞑想室



■ 診療部の紹介



内科

発熱・倦怠感・頭痛・胸痛・せき・息切れ・動悸・むくみ・便秘・下痢・腹痛・めまい等、広く内科全般にわたり診療しています。



総合診療科

何科にかかれば良いのかわからない病気に対応し、心と体の調和のとれた医療を目指しています。



循環器内科

急性期から慢性期の患者さんに対応しています。心臓超音波検査・頸部動脈超音波検査やトレッドミル検査の他、生理検査を行い、各種心疾患の早期診断、治療を行っています。



消化器内科

消化器疾患の診断・治療に広く対応しています。消化器内科の治療を追求しつつ、外科治療のタイミングや適応を逸することのないよう、連携しています。



呼吸器内科・呼吸器外科

肺炎からCOPD等の慢性肺疾患、結核や非結核性抗酸菌症の診断や治療、肺がんの診断・治療、気管支鏡検査などに対応しています。アスベスト疾患の2次検診にも対応しています。



神経内科

重症例や救急症例を除く、脳梗塞、パーキンソン病、各種神経疾患の診断、治療を行っています。また、リハビリテーション科を始めとする全ての診療科とも常に連携し、患者さんの治療に最適な医療を提供しています。



外科

手術にあたっては、正確なインフォームドコンセントを行い、患者さんの不安を解消できるまで何度でもご説明するよう努めております。



脳神経外科

入院中の患者さんに対し、脳卒中などの脳に関わる病気を診療の対象としています。神経学的検査、画像診断(CT、MRI)を行い、適切な治療に結びつけていきます。また、対象疾患による後遺症に対するリハビリ管理も行います。



整形外科

主に慢性期の患者さんに対応しています。診断(CTやMRIなど)及び理学療法に力を入れています。



緩和ケア科

患者さんの痛みやつらさに焦点をあてて、病気自体は治らなくても、つらい症状を軽減し、1日1日を有意義に送ることを目指しています。毎日の生活を通して“いのち”のあり方を一緒に考えています。



リハビリテーション科

脳梗塞・脳出血等の脳血管疾患や、大腿骨頸部骨折・脊椎圧迫骨折等の整形外科疾患、外科手術後の廃用性症候群等の患者さんに対して高度な急性期治療を行った後、在宅復帰を目標に積極的なリハビリテーションを行っています。



麻酔科

麻酔のためのトレーニングを積んだ麻酔科医が、手術室では「手術のための麻酔」と「術中管理」を行っています。

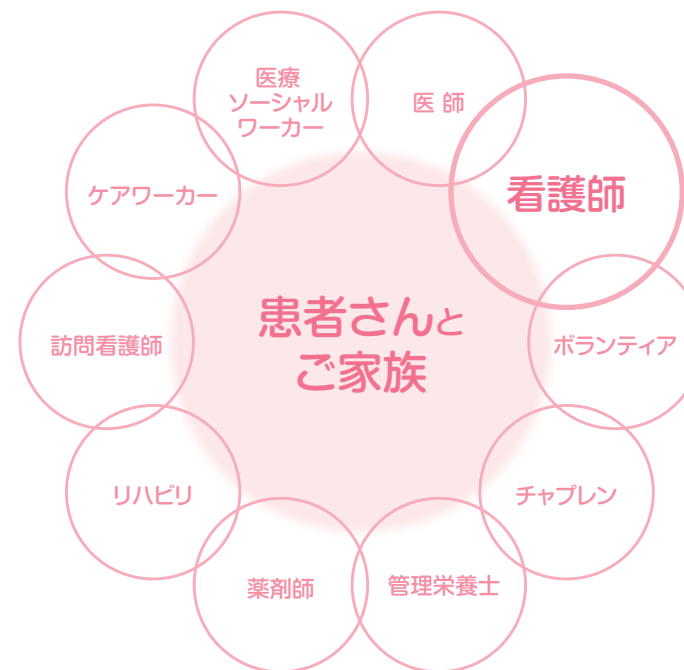


糖尿病

入院では症状により内服治療、インスリン治療、自己血糖測定やインスリン自己注射の習得、また、糖尿病の基礎知識を学ぶほか栄養士による栄養指導を行い、外来では、内服薬やインスリンによる血糖コントロール、インスリン導入・栄養指導・フットケアを行っています。



■ チーム医療



■ 私たちが目指す看護師像

F.ナイチンゲールもW.M.ヴォーリスも「自分の持つ力を十分に活かせ」と述べており、体内に宿る自然の回復過程が活発に働くように、看護とは病気とは人間とは何かを看護師独自の視点で考え、生活の処方箋を描きケアを実践します。私たちは患者さんの一番近くにいるものとして寄り添い、その人らしい生活を整えることを看護の心として感性を高く持ち、人間力のある看護師を目指しています。

■ 教育・研修体制

- 1.看護職員として必要な基本と姿勢
- 2.技術的側面
- 3.管理的側面

当院では、上記3つの面で新人教育を行っています。さらに、新人看護師、介護士の教育を年間教育プログラムに沿って行っているほか、プリセプターシップを取り入れています。新人が早期に職場環境に慣れ、基本的看護・介護実践ができるよう、プリセプター、エルダーを中心にスタッフ全員で支え、「皆で育てる」という意識をもって新人を育てるようにしています。



■ 看護部理念

私たちは
その人らしさを大切に
全人的な看護・介護を
提供します



■ 看護部方針

1. 患者さんの人権を守ります。
2. 個別性と安全性を重視します。
3. 患者さんの自立への支援をします。
4. 継続性のあるケアを提供します。
5. 「ヴォーリス医療・保健・福祉の里」の中で看護・介護の役割を担い地域に貢献します。
6. 専門職、人間として成長するように努力します。



診療技術部

Medical treatment engineering part

■ 専門知識を提供する医療チーム

臨床検査科・放射線科・MEサービス・栄養科・薬剤科・リハビリテーション技術科・メディカルフィットネスセンター ヴォーリスから構成しております。いずれの科も医師・看護師に専門知識を提供して医療チームの一員として仕事をしています。

■ 臨床検査科

当臨床検査科は生理検査部門と検体検査部門に分かれています。生理検査部門は心エコー、ECG等の循環器検査並びに呼吸機能測定等の生理検査を実施しています。呼吸機能検査では肺活量やフローボリュームの測定だけでなく、DLco(肺拡散能力)検査ができる総合肺機能測定装置(株)フクダ電子を使用して、間質性肺炎とよばれる、びまん性肺疾患の早期発見、肺気腫など肺の病態診断に役立つ検査を致しております。また、睡眠時無呼吸症候群の診断に役立つ携帯型SAS検査を導入致しました。検体検査部門は2005年12月1日よりプランチラボ(検査センターメディック)になりました。院内にて緊急項目の血液並びに尿検査を実施しています。検査病態意識し検査業務の取組む事をモットーとし、患者さんに必要不可欠な臨床検査を目指します。



肺機能検査機器



脳波検査機器

■ 放射線科

当病院には、一般撮影装置(2台)、ポータブル撮影装置、CT撮影装置(64列MDCT)、MRI撮影装置(1.5T)、TV検査装置、骨密度測定装置があります。



CT撮影装置



MRI撮影装置

■ MEサービス室

近年、多くの医療機器が医療の現場で使用されるようになりました。これらの機器を安全に信頼性高く操作、管理することはたいへん重要です。当MEサービス室(臨床工学部門)は院内の医療機器の保守点検を行っています。その他、非侵襲的人工呼吸器の貸出しと睡眠時無呼吸症候群の治療に経鼻的持続陽圧呼吸装置(CPAP)の貸出しと管理をしています。医療の質の向上すなわち患者さんに対する医療サービスの向上を目指します。

■ 栄養科

食事は病気の回復や生きる喜びへと繋がるものと考え個々の患者さんに合わせた食事の提供を行っています。直営の良さを生かし、行事食で季節感を味わっていただきます。入院、外来を問わず栄養指導を行い、糖尿病教室や出前講座などを通じて地域の人々への疾病予防にも力を注いでいます。



入院患者さんへの食事例



栄養指導

■ 薬剤科

各病棟を担当する薬剤師が、入院中の患者さんに安心して安全な薬物治療していただけるよう、あらゆる医薬品の安全管理を行っています。最近、栄養サポートチームや感染管理チームなどにも積極的に参加し、チーム医療に貢献しています。また、在宅訪問による薬剤管理にも取り組んでいます。



服薬指導



個々の患者さんに合わせて調剤をしています

■ リハビリテーション技術科

■ 基本方針

- 個性性を重視…じっくりと、ゆとりのあるサービスの提供
- 地域・生活へつなげるリハビリテーションの提供
- 退院後の安定した療養生活の提供
- 患者さんの「声」を大切にします

総合リハビリテーションセンターで約60名のリハビリスタッフが活動しております。回復期リハビリテーション病棟は、365日リハビリテーションを実施しております。セラピスト1人の担当患者数を最大で8名とし、個性性を重視した、ゆとりあるサービス提供を実施しております。退院後は、外来リハビリテーション、訪問リハビリテーションにて継続することが可能です。



屋上庭園(屋上リハビリ)



リハビリテーションセンター



機能訓練室



各訓練室

訪問リハビリ

介護保険法関係法令の趣旨(介護保険の場合)に従って、かかりつけ医の指示と居宅計画サービスに基づき、適正な訪問リハビリサービス(動作練習、住宅環境設定、介護者への指導等)を提供し、日常生活動作の維持及び回復を図るとともに、生活の質の確保を重視した安定した療養生活が継続できるように支援することを目的とします。リハビリテーションの専門家(理学療法士、作業療法士、言語聴覚士)がご自宅を訪問し、療養上必要な指導をさせていただきます。



訪問リハビリの様子

■ メディカルフィットネスセンター ヴォーリス

皆様の健康づくりのお手伝いをする場所、にぎやかに楽しく人と交流できる場所として当センターは営業をいたしております。近江八幡市から委託を受けた介護予防事業と実費による会員制のフィットネス事業の2種類の営業方式をとっております。病院経営のフィットネスセンターですが、健康な方は体力づくりや健康維持として、病後の方は日常生活を潤いあるものにするための練習の場としてご利用ください。介護福祉士とスポーツトレーナーが丁寧に対応いたします。



フィットネスセンター



様々なトレーニングマシン



エアロバイク



トレッドミル



地域療養支援部

Community Care Support Department

■ 地域療養支援部の紹介

地域療養支援部の医療ソーシャルワーカーと看護師等で、入院中及び地域の患者さんが、適切でよりよい社会生活、療養生活が送れるよう、医療・保健・福祉などの統合的支援を行います。
在宅療養支援病院として、チームで地域包括ケアシステムの推進に取り組みます。

ご相談をご希望の方

TEL.0748-32-5221 または
1階の『総合受付4番医療相談窓口』に直接お越しください。

役 割

- 各医療機関との連携調整、外来、検査予約
- 医療・介護に関する相談全般
- 紹介患者の迅速な入院調整
- 入院患者の入院前支援・退院支援
- 退院時支援・地域との連携
- 医師による訪問診療
- 地域の暮らしを支える啓発活動

その他お困りことがありましたら、一度ご相談ください。



地域療養支援部が窓口となり
安心した生活ができるよう
患者さんと一緒に考えます

病院概要・各種認定

病院概要

管 理 者
開 設
病 床 数

公益財団法人近江兄弟社 理事長 ミツ浪 健一
1918年(大正7年)5月25日
一般病床:50床(急性期18床、地域包括ケア32床)
療養病床:102床
(医療療養42床、回復期リハビリテーション60床)
緩和ケア病床(ホスピス):16床
診療科目
内科／循環器内科／消化器内科／呼吸器内科／
神経内科／外科／呼吸器外科／脳神経外科／
整形外科／緩和ケア科／リハビリテーション科／
麻酔科／専門外来(糖尿病・褥瘡)

各種指定 一般病院

健康保険法
共済組合法(保険医療)
身体障害者福祉法(更生医療)
戦傷病者特別援護(更生医療)
介護保険
滋賀県福祉医療費助成制度
原子爆弾被爆者医療法(一般疾病)
船員保険法
国民健康保険法(保険医療)
労働者災害補償保険(療養補償)
生活保護法(療養補償)
感染症法(療養医療)
近江八幡市福祉医療費助成制度

施設基準 (基本診療料)

機能強化加算
一般病棟入院基本料(急性期一般入院料 5)
療養病棟入院基本料 1(8割以上)
回復期リハビリテーション病棟入院料 1
地域包括ケア入院医療管理料 1
緩和ケア病棟入院料 1
診療録管理体制加算 2
医師事務作業補助体制加算 1(25:1)
急性期看護補助体制加算(25:1)
(看護補助者5割以上)
重症者等療養環境特別加算 2

施設基準 (基本診療料)

療養病棟療養環境加算 1
栄養サポートチーム加算
後発品医薬品使用体制加算 1
感染対策向上加算 2
病棟薬剤業務実施加算 1
データ提出加算 1
入退院支援加算 1
認知症ケア加算 2
医療安全対策加算 1
看護職員夜間配置加算 16対1配置加算 2
せん妄ハイリスク患者ケア加算

施設基準 (特掲診療料)

がん性疼痛緩和指導管理料
がん患者指導管理料イ・ロ
がん治療連携指導料
薬剤管理指導料
検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料
医療機器安全管理料 1
在宅療養支援病院「第14の2」の1の(1)
在宅時医学総合管理料及び施設入居時等医学総合管理料
在宅がん医療総合診療料
在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問
看護・指導料の注2
検体検査管理加算(I)
CT撮影及びMRI撮影
脳血管疾患等リハビリテーション料(I) 初期加算届出有
運動器リハビリテーション料(I) 初期加算届出有
呼吸器リハビリテーション料(I) 初期加算届出有
がん患者リハビリテーション料
医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
在宅患者訪問褥瘡管理指導料
神経学的検査

医療安全管理室

Medical Safety Management Office

■ 医療安全管理室の紹介

医療安全管理責任者(専従)を配置し、安全管理に関する院内の体制の構築、委員会等の各種活動の円滑な運営を支援しています。
また、医療安全に関する職員への教育・研修、情報の収集と分析、対策の立案、事故発生時の対応、再発防止策立案、発生予防および発生した事故の影響拡大の防止等に努めています。
これらを通し、安全管理体制を組織内に根づかせることで、安全文化の醸成を促進するよう取り組んでいます。

医療安全管理責任者(専従)の役割

安全管理体制の構築

- 職種横断的活動
- 安全管理指針の見直し
- 医療安全管理委員会の運営に参画し、円滑な活動が行えるように支援する。

医療安全に関する職員への教育・研修の実施

- 職員参加型研修の企画及びアンケートを実施し、全職員へフィードバックする。

医療事故への対応と再発防止

- 日々の報告から未然予防対策を心がけ、医療事故発生時は、対応について支援する。
影響拡大を防止するための対応や再発防止のための調査、報告書の取りまとめ等に協力し、院内各部署への周知を図る。

安全文化の醸成

- 組織横断的に、医療安全改善活動を行い、職員の医療安全のリスク感性を高め、医療事故の未然予防を促進する。

医療安全に関する患者相談の対応

- 地域療養支援部と連携し、患者・家族からの相談に対応する。

会議

- 医療安全管理委員会(1回/月)
- 推進カンファレンス(1回/週)

その他の活動

Other activity

■ ボランティアさんの活動

当院では多くのボランティアさんにご協力いただいております。ボランティアさんが届けてくださる憩いと安らぎの時をお過ごしください。

現在の主な活動内容

音楽会、園芸活動、外来の案内、縫製の作業、小布たたみ、お茶等のサービス、花瓶の手入れ、礼拝堂の環境整備…など



ボランティア募集

随時、ボランティアを募集しています。
ご遠慮なく電話でお問い合わせください。

■ 祈り、祈られる病院



チャペル



祈りの部屋

神様に助けを求めて祈り、安らぎ、慰め、平安を得るためのチャペル、祈りの部屋です。皆様もご自由に静かな祈りの時をお過ごしください。
私たちは誰でも病気になると不安や恐れを覚えます。チャプレン(牧師)は、患者さんご家族の気持ちに寄り添い、お話をお伺いします。
ご遠慮なく声をかけてください。

ヴォーリス記念病院 旧礼拝堂(1937年に献堂)

●日曜礼拝 8:30(於:旧礼拝堂)

※どなたでもご自由にご参加ください。皆様をお待ちしております。
※急遽、休みとなる場合もございますのでお問い合わせください。





公益財団法人近江兄弟社

ヴォーリス記念病院

〒523-0805

滋賀県近江八幡市円山町927-1

TEL:0748-32-5211

FAX:0748-32-2152

初診受付 / 8:30~12:00

再診受付 / 7:30~12:00

診療 / 9:00~12:00

休診日 / 日・祝・年末年始(12/29~1/3)

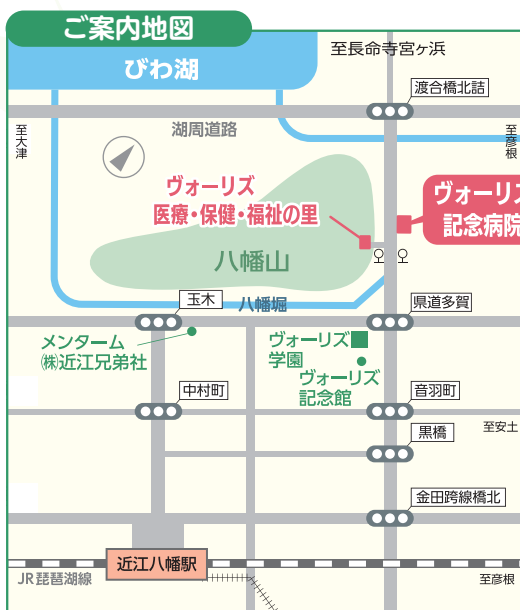


www.vories.or.jp/

ヴォーリス記念病院

検索

※午後からの診療は診療科目によって受付診療時間が変わります。詳しくはHPをご確認ください。



交通アクセス



お車・タクシーをご利用の場合

名神高速道路電王ICより 約30分
名神高速道路八日市ICより約40分
JR琵琶湖線近江八幡駅より約8分



電車・路線バスをご利用の場合

JR琵琶湖線近江八幡駅下車
近江八幡駅北口より
近江バスで長命寺行き
ヴォーリス記念病院前下車徒歩200m

近江八幡市 あかこんバス

片道200円 平日運行(時刻表は病院玄関に掲示)
県道信号バス停に停車いたします



無料送迎バスをご利用の場合

病院外来診療日のみ運行。ケアハウス、
病院玄関、JR近江八幡駅に停車いたし
ますので、ご利用ください。
(ケアハウス出発は病院玄関の10分前です)

病院 発	JR近江八幡駅北口 発
—	9:10
9:50	10:10
10:50	11:10
11:50	12:10
13:35	13:55
14:35	14:55
15:35	15:55
16:35	—

関連事業体

■ 公益財団法人 近江兄弟社(本部)

〒523-0841 近江八幡市慈恩寺町元 11
Tel:0748-32-2456 Fax:0748-33-6960

■ ヴォーリス老健センター

(介護老人保健施設)

〒523-0806 近江八幡市北之庄町 492
Tel:0748-32-2007 Fax:0748-32-0055
HP <http://care-net.biz/25/voroken>

■ ヴォーリス居宅介護支援事業所

〒523-0806 近江八幡市北之庄町 492
Tel:0748-31-3301 Fax:0748-36-5457

■ 訪問看護ステーション ヴォーリス

〒523-0806 近江八幡市北之庄町 492
Tel:0748-32-1199 Fax:0748-32-1501

■ 看護小規模多機能型居宅介護 『友愛の家 ヴォーリス』

〒523-0806 近江八幡市北之庄町 492
Tel:0748-36-5474 Fax:0748-36-5473

■ ホームヘルパーステーション ヴォーリス

〒523-0806 近江八幡市北之庄町 492
Tel:0748-32-7130 Fax:0748-36-5458

■ メディカルフィットネスセンター ヴォーリス(リハビリテーション科)

〒523-0806 近江八幡市北之庄町 492
Tel:0748-32-5540 Fax:0748-32-5541

■ いいききサロン ヴォーリス

〒523-0865 近江八幡市為心町中 31
アンドリュース記念館(旧YMCA会館)
Tel:0748-32-7130 Fax:0748-36-5458

■ 社会福祉法人 近江兄弟社地塩会 ケアハウス信愛館

〒523-0806 近江八幡市北之庄町 492-2
Tel:0748-32-2220 Fax:0748-33-7555

■ 中北部地域包括支援センター

〒523-0806 近江八幡市北之庄町 912
Tel:0748-31-1970 Fax:0748-31-1971